

AC PAPER

www.a-crafts.co.jp

エー・シー・ペーパー

ISSUE
06



特集 ええかザんがき張らなで

ええかげんな

气張らな

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

まいど！と迎えてくれる商店街の店主たち。
スーツにママチャリでビジネス街を
駆け抜けるサラリーマン。軒先のブランターで
「自分ち」を拡張しまくるおばあちゃん。
大阪では、カッコつけていない風景をよく
見かけます。そんなに肩に力入れなくても
良いんじゃない？
今号では、そう問いかけてくれるような
人や場所をご紹介します。
ホッと一息ついていってください。

CONTENTS

特集 ええかげんな気張らなさ

- ・CASE 01 ありのままを写し出す 02
- ・CASE 02 肩肘張らない住まい方 06
- ・CASE 03 カッコつけすぎない、で14年 11

未来妄想 vol.1 15

働くいまを楽しもう！

沖縄通信 鼻歌 17

CASE 01 ありのままを写し出す

人の暮らしと住まいについて撮り続ける写真家・平野愛さん。

2018年には、引越しをする人々に焦点を当てた写真集『moving days』を刊行し話題に。
そこに写し出されているのは、まさに「気張らない」ありのままの生活感。

魅力的な写真の源を探りながら、平野さんのルーツにも迫ったインタビューになりました。

「引越し写真を撮ろうとしたきっかけは、別の本の企画で家を取材した方が引越しすると聞きつけたことでした。『あんな素敵な家を離れるって、どんな気持ちなんだろう?』と思い、撮影させてもらうことに。私自身、引越し経験が二度しかない上に、一人暮らしをしたことは一度もないんです。だから一人暮らしへの憧れが強いのかもしません。特に一人の女の子が考えて、泣いて、笑って、住まいを移すというプロセスを見るのが好きなんです。」



平野愛さん

1978 年京都市生まれ。大阪在住。
夫と小学生の息子と3人暮らし。
自然光とフィルム写真に
こだわったフォトカンパニー
「写真と色々」設立。雑誌・書籍から
テレビドラマまで多様に活動。
アートアンドクラフトの手がける
空間撮影は10年以上担当中。
<http://photoandcolors.jp>





誰かの引越しに立ち会くと、感情が昂って泣いてしまうという平野さん。もともと竣工写真を撮りながら、さらにもう一步「生活」に踏み込めないかというときに出会ったのが引越し写真だったそう。

「次の家に持って行くもの、捨てていくものを見ていると、その人の人生が映画みたいに見えることがあるんです。家具を退かした痕跡さえも愛おしい。『それ置いていくかー!』とか思ったり(笑)。その人なりの哲学とか、人間臭さを感じる瞬間が好きなんでしょうね。」

そもそも、カメラを持つようになったきっかけも、「人」への憧れだったと言います。

「写真を撮めたのは大学時代。カメラを持つ姿ってカッコイイ、と思ったのがきっかけです(笑)。でも、それより前から『人の生活』というのには興味があったのかもしれませんが。小さい頃から『サザエさん』『いじわるばあさん』が大好きで。活字の本でも日記小説ばかり読んでます。家族模様だとか、なんでもない日常だとか、そういうものを覗き見するのが好きなんです。それが写真でできないかなと思って撮っています。」

平野さんの写真には、気取らない日常をありのまま包んでくれるような温かさが滲みます。平野さん自身も、気さくで「気張らない」性格の持ち主。しかし、昔はそうでなかったと語ります。

「30年近く住んでいた実家は京都の中心部にありました。周りは創業数百年のお菓子屋さんとか、呉服屋さんだとかがひしめく世界。友人の家であっても気軽に入ることはできませんでした。だから大阪に出てきたときはびっくりしました。大阪の人はすぐに『これ持って行き〜』と言ってモノをくれたり(笑)、とにかく人との距離が近くてカジュアル。その距離感がありがたくて、最初はすぐに京都に帰るはずが、こうして住み着いてしまっています(笑)。私自身、

ドラマに出てくる洋館のように素敵！
→ 実家の写真を特別に見せてもらいました。



『サザエさん』の並ぶ本棚。ぼろぼろになっ

大阪に住んで性格が変わったと周りの人に言われました。」

「実家は築100年以上経つ『洋風町家』という珍しい建物で。そういう環境で育ったこともあるからか、集合住宅や、サザエさんの住む平屋にも強い憧れがあるんです。みんなで共有している、開けた感じに興味津々。気を張らずに人の家に入らせてもらえて、生活を覗かせてもらえる今の仕事が楽しいです。」

住まいの写真を中心に撮り続けてきた平野さんですが、直近の仕事は一風変わっているようで…。

「“普段は誰にも見せないような料理”をテーマにした料理本の写真*2を担当しています。他人には見せることのない、人々の暮らしぶりはそれぞ



自宅はアートアンドクラフトの設計施工です。
ステイホーム期間、映画鑑賞がはかどったそう！

れかなり独特で、取材はとても楽しいです。

竣工写真などを見ている、みんながみんなモデルルームみたいに素敵に暮らしているわけではないよね！と思っています(笑)。実際、写真を担当しているサイトでも#家の中というタグがヒットしていたり、断トツで閲覧数が多かったりして…。人々の気張らない暮らしに興味がある人は想像以上にたくさんいるのかも、と最近思い始めています。」

終始、飾らない雰囲気できれやかに語ってくれた平野さん。聞いている私たちも、肩の力が抜けていくような心地がしました。彼女のカメラを通して出会う人々の生活風景が、これからも楽しみです。

CASE 02 肩肘張らない住まい方

北摂で有名な、個性派マンションの一室を2016年にリノベーションして住んでいる三好さん夫妻。畳敷きのリビングに、所狭しと並べられた民藝の品々。好きなものをコレクションしながら、とても素敵な暮らしをしているらしい!? と聞き、住まいにお邪魔してきました。

まず入って驚くのは全面畳敷きのリビング！元々イメージをお持ちだったんですか？
ケイスケさん：ヘリンボーンフローリングを使ったりしてギャラリーみたいにかっこいい家にするか、民藝のものを置いて好きにできる家にするか、悩んでいたんです。そこで偶然このマンションは防音規定が厳しく、無垢のフローリングを敷くには床を上げなければいけないことがわかって。ではもう割り切って、全部畳にしまおうと！

思い切りがいいですね。
お二人とも

民藝の品が好きだったのでしょ
うか。
マリさん：いえ！この家は百パーセント、夫の好みです。私が選んだものはほぼない(笑)！
ケイスケさん：以前から興味はありましたが、家を買って好きなようにできるとなってから増えてきました。元来オタク

気質で、気になり始めたところとこだわってしまうようです。



個展に行ったり民藝館に行ったりしているうちに徐々に好み
が固まっていたのですね。

2. リビングダイニングは全面畳敷きに格天井。手持ちのコレクションとの相性が抜群(写真はリノベーション竣工当時)



どんなものに魅力を感じますか？

ケイスケさん：手仕事のもの、特に素朴な民藝のものが好きで

す。とりあえずこれ、ではなくて最初から一生使うものを選ぶようにしています。海外のものも多いですね。椅子はエキバルチェアというメキシコのもの。イギリス製のサイドボードや、アフリカのお面…食器や布は作家のものが多いです。

また増えた～！って、夫婦喧嘩になりませんか？

マリさん：また増えた！はいつものことなのでもう思い

ません。あまりこだわりのないで、スルーしているからかも。夫の何かをいになって思うレベルが100だったら私は1くらいかなあ(笑)。

ケイスケさんのこだわりと、マリさんの許容範囲の広さが絶妙にマッチングしているんですね！人が来たら、びっくりされませんか？

マリさん：友達に来たら、「これ何？」って順番に聞かれます。私は「え、知らん」って言っていま

す。あとは、最近、在宅ワークでWEB会議があるんですけど、みんな私の背景を見て「ん？」ってなります。「背景、バーチャルじゃなくてほんま

の家なん？」って(笑)。

ちなみにお二人の出会いを聞かせてください。

ケイスケさん：台湾のゲストハウスで知り合ったんです。お互い一人旅をしているときに、なんか食事に誘われて。**マリさん：**それには理由があった！友達に教えてもらった店がバイキングの店だったんですよ。「ひとりで行ってもな～。この人やったら一緒に行ってくれそう！」って(笑)。帰国してからは早かったですね～！トントン拍子で。まあ、ええんちゃうって。

運命の出会い！お二人とも、自分にじっくりくるものを選ぶのがとても自然で上手なよう

に思います。マンション自体も個性的ですが、これは初めて見たときにこれだ！と思ったんですか？

マリさん：夫はすっかり気に入っているのに、なかなか踏み切りがつかなくて。「好きやったら悩む暇ないんちゃうん」って私がガツンと言いました(笑)。

後から考えると別の棟で祖父が管理人をしていたことがあったり、何かと縁があったんだなと思います。このマンションは、間取りもそれぞれ違うので、住んでいる人はみんなお互いの家が気になるん

がありました。いろんな家があって本当に面白かったです。我が家を見た人はみんな、「三好さんらしいな～」と言っていました。

これからどんな住まいにしていきたいという展望はありますか？

ケイスケさん：特に変わりません。じっくり選んでいるので時間がかかりますが、家具など必要なものは揃ってきました。今のうちに、好きなものに囲まれて楽しく過ごしながら、少しずつ手を入れて整えていきたいなと思います。

流行りやジャンルにとらわれず、自分の価値観や好みを大切に。自身にじっくりくるものを選ぶのが上手な三好さん夫妻。お二人らしさが滲み出る、とても素敵な住まいでした！

3. 家の中に並ぶお気に入りの民藝の品々。

4. どんどん増える子どものおもちゃ。散らかりがちなのでお気に入りのカゴに収納しているそう。

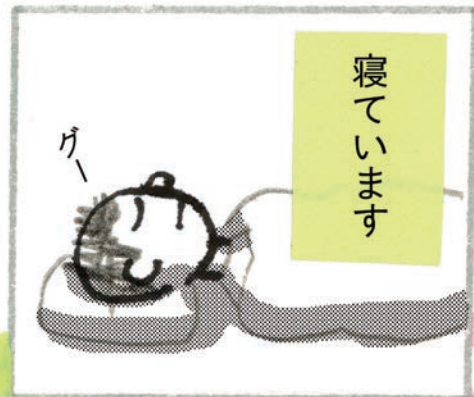
5. 沖縄の厨子壺。僕は死んだら、お墓はいらないからここに入れてって言っています。お墓の近くに子供が住むかどうか分からないし。妻はなんて思っているか知りませんが(笑)と、ケイスケさん。

6. 毎年買い足しているしめ縄や海外の編組品。

7. 名字の「3」をモチーフに、型から作ってもらった型染めのれん。

8. 襖紙ではなくWhOの壁紙を貼った襖。穴を開けてしまったところは丹波布でリペアしています。

9. 三好さん家族。ケイスケさん、マリさんと、4歳と1歳の子供の4人家族です。



CASE 03 カッコつけすぎない、で14年

2019年春、大阪・心斎橋で長年愛されてきたスタンダードブックストアは惜しまれながらもクローズ。しかし今年の春、大阪R不動産で見つけた天王寺のビルを借りて改装し、再スタートを切りました。本とともに大阪の風景を作ってきた中川さん。新店舗のコンセプトは？何か野望はあるんですか？返ってきた言葉は、「カッコつけすぎない」スタンダードブックストアの在り方そのものでした。

中川和彦さん：1961年生まれ。大阪府出身。

1987年、25歳の時に父親が経営していた、

百貨店の書籍売場を運営する会社を引き継ぐ。

2006年心斎橋に「本屋ですが、ベストセラーは

おいてません。」をキャッチフレーズに、

雑貨販売やカフェを併設したスタンダード

ブックストアをオープン。様々なゲストを招いた

トークイベントを店内で多数開催し、

好評を博した。



新店舗を立ち上げるにあたって、施工に参加する形のワークショップが行われました。作業の際、TEAM クラプトン（設計・施工を担当した工務店）や協力者の方にお伝えしていたことはありますか。「とにかくカッコすぎない店にしたい、と言っていました。それは以前の店を作ったときも思っていて。本屋の良さは何より入りやすいこと。イキってるような店は嫌なんですね(笑)。

心斎橋の店もそういうコンセプトだったんですが、たまに「オシャレな店ですね」なんて言われたりして、俺の感覚ズレてんのかな！？とか思ったり(笑)。オシャレを狙ったら違う方向性になってますよ。本屋はそもそも街の余白みたいな場所なんで、みんなが触れる、入り込める隙がないと息が詰まる。“みんなに関わってもらおう”というコンセプトもあったので、現場で考えて臨機応変に、

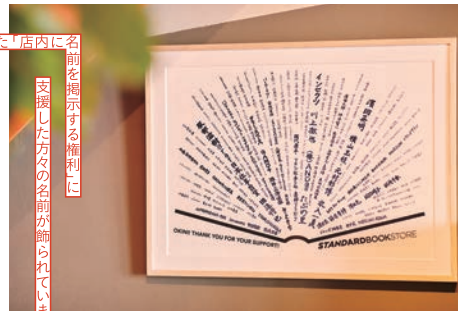
というのもありました。特にデザイン等の指示はしていないですね。クラプトンの良さが出るのはそういうやり方かな、とも考えていました。」

まさに「ええかげん」！臨機応変が良い方向へ転んだのですね。2ヶ月のワークショップを終えて思ったことは？

「数十人分のまかないを作るのが大変でした(笑)。あとの大変なことはすぐ忘れてしまいましたね。楽しかったです。ただ一つ印象に残ったことは、参加してくれた人の中には仕事や社会に疲れてい

クラプトンが作った椅子は、

残った「店内に名前を表示する権利に
支援した方々の名前が飾られています」



10代代表・服部滋樹デザイン

「風変わったこの椅子は」

る人が多かったなということ。そういう人にとっては癒しのようになっていたようで、それは想定していなかったので驚きでした。

スタンダードブックストアを始めた当初から、“ここに来たらホッとできて、いろんな辛いことだったりのリセットできるような、前向きになれる空間になってほしい”という思いはずっとあります。そういう場所が、ますます必要になってきているのかもしれないのに、世の中は逆行しているなという実感もある。本屋は出入り自由で、買わなくても全く罪の意識を感じない。それは公園のようだ、とよく言っているんですが、そもそも公園自体が減っている。ここはそういう場所にせなあかんああと、最近は考えていますね。」

オープンして数ヶ月。現段階で目指しているお店像は？

「ちょうど工事が始まると同時に、新型コロナウイルスが騒ぎになり…本当は、ここに来たら面白い人がいて、飲みながら会話が弾んで…というのが理想ではあったんですが、「全部“密”やないか!」と。やりたかったことが全否定された。頭が真っ白になりました。ただ、そんな中でも店は開けなければいけない。試験的に開けたりしているうちに、だんだんと今の形に落ち着いてはいるという状況です。正直に言うと、目指すべきところは未だにクリアには見えていません。それでも、本の売り上げは意外に下がっていない。ありがたいです。ネットで拡散されるだけでなく、こころへんの、

壁面には佐賀純
香さんによるもの。



現在同氏デザインの
提灯もぶら下がっています。



地元の人にも愛されるお店になればと思います。天王寺には、またミナミとは違う可能性も感じています。」

「もしコロナが終息しても、みんなの意識が以前とは変わっているかもしれない。だからまだまだ模索中です。基本自分のことしか興味ないので(笑)、自分が面白くて人に喜んでもらうのが一番かな。自分が面白くないと人に勧めることもできないですし。」

今秋オープンの心斎橋 PARCO にも出店が決まっています。

「『スタンダードブックストアが心斎橋に帰ってきた!』とか書かれていますけど、そこまで乗り気

じゃない(笑)。商業施設に興味がないんです。話題になってるから行く、みたいな所を果たして面白いと言えるのかどうか。大阪は気張らなくてもいいし、その中途半端さが許容されている都市だと思うので。」

「千早赤阪村で農業をやっている知り合いが、『本屋がない、文化がない』と言っていて、『Amazon では本の一覧を見渡せないし、大型書店は広すぎる。適度な広さの、出会いがある本屋があればいいな』と。それを聞いたとき、自分は意外にええ商売やってるんやなと思いました(笑)。本屋は絶対あった方がいい。

屋外にも飲食スペース



があるので、安心して利用できます。
オリジナルのカレーは
絶品!ぜひご賞味あれ。



“ええかげん”でありながら、前向きになれるような場所であれたらいいですね。ええカッコはしたくないけど、またなんか違うのやれたらなあとか考えてます。」

「本当に何にも考えてない」と笑いながらも、たくさんのビジョンや考えを語ってくれた中川さん。その縛られない発想が豊かさに繋がって、街の風景を作っている。スタンダードブックストアが愛される理由がわかった気がしました。

STANDARD
BOOKSTORE

大阪市天王寺区堀越町8-16 TENNOJI BASE
<http://www.standardbookstore.com>

ほとんどの仕事がAIに取って代わる。ベーシックインカムが導入される。

そんなことをメディアで触れることが増えてきた矢先、コロナウイルスの感染拡大でこれまでの働き方が一変しました。

自宅でのリモートワークが中

されてしまいました。

あらゆることが合理化され生産性が上がれば、週休3日が普通になり、もしかすると想像していたよりもずっと早くおカネのために働くことが当たり前ではない世界がやってくるかもしれません。僕は資本主義の最後のフェーズか、

という制度をつくり労働の民主化を推し進めています。働かなくても生きていける時代ではないけれど、少なくとも生きていくために働かなくてはならない時代ではなくなったと思います。だからこそ、僕らが次の時代に求めているのは、気張らずに機械に働ける環境だと思うのです。僕が社

は、もうひとつの拠点を持つこと。同じ場所に長く居られない性分なので、この10年で5回引っ越しをしました。だけど引っ越しは何度やっても面倒くさい。オンラインで手続きが完結できない資格や車やらの住所変更が特に面倒くさい。だからメインの拠点は置きつつ、サブの拠点を持

年に数回利用するような別荘ではなく、日常の3割くらいを過ごすイメージ。衛星を沢山持ちたい気持ちもありますが、それでは懐が持たないし使用頻度も低くなってしまいそうなので、定期的に売買で回してその時々で自分が欲しい拠点をもちたいなと思っています。日本には床がたくさ

アートアンドクラフトは2020年10月1日付で中谷が代表を退き新たな体制となりました。ということで、今号からは副社長に就任した西川と松下でコラム「未来妄想」を連載していきます。引き続き温かい目で見守っていただけると嬉しいです。次回の変想もお楽しみに！

未来妄想 VOL.1

働くいまを

楽しもう！

心となり、これまでの会話はチャットに代わり、会議や打ち合わせはオンラインミーティング。満員電車で揺られてまでオフィスに行かなくても仕事ができしまったことや、出社することがシゴトだったオジさんたちが多かったことなど、薄々誰しもが気付いていた沢山のムダが露呈

少なくとも転換期に生きているのは間違いないさそうです。えっ？でも僕らが目指すのは働かないミライ？

アートアンドクラフトでは、7日間から10日間を休みながら働ける「公私混“働”」や、就業する場所も時間も自分でコントロールできる「フリーハンド」

会で働き始めたのは2008年。たった十数年で、その当時は考えられなかった時間や場所に縛られない働き方が可能になりました。テクノロジーの進歩とともに、これから先もまだまだあたらしい都市居住のスタイルがありそうです。

僕がこれから実践したいこと

つという作戦に出ようと画策しています。メインはいま住んでいる大阪市内。そこから車で1時間から2時間で行けて、自然を感じることができるところがサブ。いうなれば衛星のような拠点。いまのところ候補は和歌山です。地方には数百万円で取引されている中古戸建が沢山あります。

ん余ってますからね。

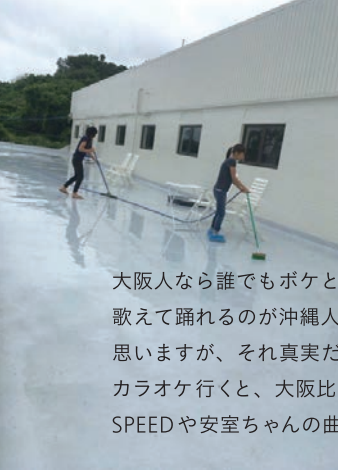
自分の性分に合わせて気張らない働き方ができれば、ミライの人からは働いていた時代が眩しく映るかも？働くいまを楽しもう！

いつもならコラムを書いているのは中谷ノボルなのですが、



西川純司 にかわ・じゅんじ

アートアンドクラフト 副社長。
建築・不動産の領域を横断しながら企画、コンサルティングを行う。双子の父親。
愛車は940とP200E。一級建築士。
宅地建物取引士。



大阪人なら誰でもポケとツッコミができると思われているように、歌えて踊れるのが沖縄人。そう考える本土の人は多いと思いますが、それ真実だと思います。というのも社内の飲み会でカラオケ行くと、大阪比で全員がプロの歌手みたいに上手いし、SPEEDや安室ちゃんの曲ならみんな踊りだします♪



沖縄に事務所があるだけでなく、SPICE MOTELの運営など、何かと沖縄にご縁があるアートアンドクラフト。この地ならではのトピックスを紹介します。

はな
鼻



沖縄
糸通
イ

OKINAWA

Tsushima

Vol.3

可
可
人
う
た

鼻歌って感情に正直というか、気張らない状態だと思うのです。変なストレスが溜まらなさそうだし、実は鼻歌で作業効率が上がるという研究レポートもあるらしい。そもそも鼻歌って、間違いなく気分が良いことの証。社内ルールや国の法律で「鼻歌禁止!」。そんな世の中に、どうかなりませんように!



そして、おそらく自分たちでは気がついてないと思うんですが、SPICE MOTELのスタッフは仕事の中にみんな鼻歌を唄ってます。フロントでリズムとりながらキーボード叩いたり、ハウスキーパーがハミングしながら掃除機かけたり。正直、最初見たときはびっくりしました。同時に羨ましいなとも。



追伸：SPICE MOTELでは音楽のイベントも開催しています。不定期のDJプレイだけでなく、普段から夜はカフェをMusic Barとして営業しているので、宿泊のゲストだけでなく県内の人でもぜひ覗いてみてください。

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

発行日：2020年12月1日

発行人：アートアンドクラフト

編集：土中萌、松下文子、吉田奈波

写真(表紙)：中村寛史

写真：平野愛 (P2-6)、坂下丈太郎 (P6-8, 11-14)

イラストレーション (P9-10)：猪原秀陽

デザイン：一野篤

印刷：有限会社 修美社

製本：大竹口紙工株式会社

制作・発行：株式会社アートアンドクラフト

[株式会社アートアンドクラフト]

大阪本社 (オフィス&ショールーム)

550 0003 大阪市西区京町堀 1-13-24-1F

電話：06 6443 1350

神戸事務所

650 0003 神戸市中央区山本通 1-7-15-2D

電話：078 231 1008

沖縄事務所

901 2311 沖縄県中頭郡北中城村喜舎場 1066

電話：098 975 8090

営業時間：10:00-18:00 水日祝休

一級建築士事務所、宅地建物取引業、建設業、古物商許可

均質化されていない住まい

あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

あらたな視点で再発見！

不動産のセレクトショップ

大阪R不動産

— REAL OSAKA ESTATE —

マンション暮らしの新基準

セレクト型リノベーション

TOLA

renovation with pre-selected design options by Arts & Crafts

いつか観たロードムービーの世界へ

スパイスモーテルオキナワ

SPICE MOTEL

編集後記

気張っていない人・物・場所。

「適当でいい」「こだわりがない」

ということでは全くなく、自信が

あるから周りの目を気にしない。

“予想外”をゆるりと受け入れて

楽しむ。そんな共通項があるように

思いました。

ええかげんにござげんに！